プロジェクト概要

本プロジェクトは都市と地方における教育機会の差に問題意識を抱いたメンバーにより、2017年度に発足しました。プロジェクト名でもあるアクティブラーニングを「自分で考えて主体的に行動すること」と定義しており、大学生、中学生、またその学校の先生、地域の大人がお互いに働きかけながら（＝能動的に）学んでいくプロジェクトとして活動を続けています。例えば、地域の将来について考えるワークショップや、学習支援（通年）などを主に中学生を対象に行っています。この活動を通じて、以下の二つの目標達成を目指しています。一つ目は、中学生に対して、視野を広げた上で地域の価値を再認識できるような学習機会を提供し、進路選択における可能性を更に豊かにすること。二つ目は、域学連携による教育活動を通じて、より多くの地域住民が地域の現状や魅力を再認識し、地域や自身の将来に向けた方策を構築することです。

長谷部先生から

本プロジェクトは都内での同様の活動を行なっていた研究会の学生が、自らの故郷の開田高原で立ち上げたものです。教育機会の差にアプローチしたいという情熱に基づいて個人ベースで始まり、そこに他の学生を巻き込んで今日のプロジェクトに成長してきました。これは本来長谷部葉子研究会で目指している当事者意識に基づいた、自分の暮らす地域、故郷との取り組みであり、将来を見据えた「教育から考える国造り」という意味で、研究会の中でも重要な役割を担っています。
2019年度は、木曽町及び開田高原の関係者の皆様のご協力を得て、例年のサマーキャンプに加えて、新たに慶應義塾大学でのSDGs（※）をテーマに中・高・大学生が一同に会した特別研究プロジェクトが実現しました。さらに嬉しいことに、今年度中に東京都内の中学校及び大学での冬の研修も企画中です。このような取り組みが、「日本で最も美しい村」の一つと謳われる開田高原内外での活発な交流をもとに学びを深め、日本の素晴らしさを学ぶことができる「教育の開田高原」のモデルになればと考えています。
つまり、開田高原及び開田中学校の皆さん、卒業生の高校生を中心に、開田高原外の中学生の参加を募ることができればと考えています。「日本で最も美しい村」に次の世代の中高生が集まり、大学生と共に日本の将来について故郷を拠点に学びあう、素晴らしいことではないでしょうか。その実現は開田高原から、いかがでしょう？

フィールド紹介

[場所]長野県木曽郡木曽町開田高原
[人口] 約1500人
[最寄駅] JR 木曽福島駅 開田高原最寄駅からは町営バスで40分ほど
[木曽町立開田中学校] 地域で唯一の中学校で全校生徒は26名(昨年度は29名)同級生が幼少期から変わらないため生徒同士の繋がりが強く、また地域の方々と交流する機会も多い学校です。一方、塾や習い事といった学校外の教育コミュニティが近辺に少ないことも特徴としてあげられます。

慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス
長谷部葉子研究会
Local Active-learning Project
lap.hasebelab@gmail.com

Local Active-learning Project

2019年度
活動内容

４月～

アートマイル壁画プロジェクト

アートマイル壁画プロジェクトとは、国際協働型のプロジェクト学習で、SDGs（※）をテーマに国外の参加校とオンラインで議論をし、理想の社会への想いを込めた壁画を半分ずつ共同制作する活動です。本プロジェクトの提案により開田中学校の総合的な学習の時間に採択され、ブータン王国の中学生と協力して壁画を作成しています。現在は大学生が毎回2～4人授業へ伺い、中学生の英語面でのサポートや、中学生の気づきや視野を広げるためのサポートを行なっています。完成した壁画は、2020年の東京オリンピック・パラリンピックにて展示される予定です。

学習支援

開田中学校から依頼を受け、2年前から開田高原の小中高生を対象に学習支援を行なっています。学外に新たな学習環境を提供する事によって、周辺に塾などの教育コミュニティが少ない状況に対してアプローチするだけでなく、学習方法の指導にも注力し、自立して学習を進められるようになる事を目指しています。今年度からは、これまでの夏冬の長期休暇を利用した学習支援に加え、通年（月一程度）の学習支援も実施しています。

※SDGs:
2030年までに達成すべき、
世界共通の持続可能な開発の為の17の目標

８月

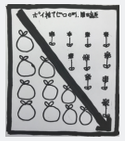
SFCサマーキャンプ

SFCの滞在施設で8/22から4日間にわたり、開田中学校を含む全国（4校）から集まった中高生と慶應義塾大学の学生でキャンプを実施しました。SDGs（※）をヒントに、「食」や「教育」「デザイン」などの切り口から、大学がある藤沢市遠藤地区に対して自分たちができることを考え実践しました。その後、実践したことをもとに、自分たちの地域では何ができるか考えました。中学生は成果物を考える中で、普段接することが少ない地域外の同世代や大学生と交流することができました。

International Summer Camp

International Summer Camp(ISC)とは、開田中学校の生徒が地元である開田高原の魅力や課題を再発見し、「開田高原のこれから」を慶應義塾大学の学生と一緒に考えていく活動です。今年で3回目の実施となりました。今年度は、開田中学校の総合的な学習の時間で扱った「SDGs」（※）をヒントに、中学生の視点から見た「こうあって欲しい開田高原の将来の姿」と、その理想の開田高原を実現するために「中学生・地域の人たちができること」を考え、「開田版SDGs」をつくりました。3日間にわたって行い、最終日には自分たちが作成した「開田版SDGs」を地域の方に知ってもらい意見交換をすることを目的に開田母子健康センターで発表しました。

開田版SDGs一例



今後の展望

初期から行ってきた学習支援や地域について考えるワークショップなどの活動が、徐々に安定して開催できるようになってきました。それに加えて、「私たちが何者か」や「私たちがどのような取り組みをしているのか」に興味を持ってくださる方が増えてきました。今後は、地域の方と教育の未来について議論していくことにも重点をおき、頂いたご意見を参考にした教育活動を行っていく予定です。地域の方々と大学生の「子どもへの想い」を持続的にカタチへしていくべく、地域の方とより“協働”していきたいと考えております。さらには、私たちの活動を一つのモデルケースとして普及させることを視野に入れております。本プロジェクト外の大学生を巻き込むことも検討しながら、長谷部葉子研究会”Local Active-learning Project”という形での活動が終了してからも、持続的に活動を続けられる仕組みも考案していきます。